

# Imadoki

2022  
November 11  
vol.91



## 身近に進むIT活用の課題

私事ですが、先日開催された「第1回 東京レガシーハーフマラソン」に出場してきました。

スタート＆ゴール地点は、東京オリンピックが開催された国立競技場という事で、参加をとても楽しみにしていたのですが、スマートフォンを活用しないと参加できない仕組みとなっており、50歳になる私もアプリの操作に四苦八苦する場面がありました。

参加申し込みがネット申請限定なのは既に珍しくありませんが、マイページ登録、体温＆体調管理アプリ、アスリートビブス(旧名:ゼッケン)引換&PCR検査電子チケット、当日の参加電子チケット(顔写真要)…とスマートフォン&QRコード&顔認証がフル活用された仕組みでした。

スマートフォンに習熟していないと参加が危ぶまれるレベルでIT化された結果、つい数か月前までIT企業の社長であった私ですら困惑する部分もありました。ボランティアの方に助けていただいてなんとか切り抜けましたが、参加できないかもと思って冷や汗が出ました……。



10代～80代の方まで幅広い年齢の方が参加される大会ですが、50歳で割とIT詳しいハズの私が戸惑うようでは、ITの進歩にはまだまだ課題が多い……と感じた次第です。

一方で、コロナ対策で必要となった参加者15,000人分の本人確認を、という大量の参加者に対して短時間かつ少人数のオペレーションで実施できる原動力もITの力であり、生産性は非常に高い仕組みでもありました。

つい最近、健康保険証が廃止され、かわりにマイナンバーカードが保険証として利用されることが発表されました。賛否両論が巻き起こっているようですが、そもそも顔写真も無く、本人確認が全くできないカードでお得に保険診療が受診できる仕組みは、現代においてはもはや制度上の不具合であり、マイナンバーカードに統合されるのは自然な流れに感じます(指紋や顔認証が使える勤怠管理システムの方が認証レベルは優れていますね…).

ITはとても身近な技術となりましたが、現在においてITをより活用できる人、企業だけが有利になる点があることは否めません。全ての世代、企業で紙と同じくらい誰もがITを活用できる時代に早くなつて欲しいものですが、待っているだけではそんな時代が来ないことは明らかなので、コムデックはこれからもお客様のIT活用支援に注力してまいります！

取締役会長 橋口 雅寿



# 中小企業のIT活用のポイント編

Imadoki10月号で kintone 導入秘話を語ってくださったゆめネット様。今回は、LINE WORKS や Dropbox、KING OF TIME 等のツールについてのお話と、「中小企業が IT 化を進めるときのアドバイス」をお伺いしました！



社会福祉法人ゆめネット様  
<https://ymnt.jp/>

 ゆめネット様は kintone だけではなく、LINE WORKS や Dropbox、KING OF TIME といったツールも活用されていますよね。それぞれのツールの役割や、活用状況を教えてください。

 汎用的にいろいろできる kintone と違って、LINE WORKS はチャット、Dropbox はクラウドストレージ、KING OF TIME は勤怠管理……と役割が明確ですよね。KING OF TIME は社内にかなり浸透していて、「自分の勤怠は自分で確認して申請する」が普通になっているので皆抵抗なく実施してくれています。

前は手で集計しないといけなかった勤怠が自動的に集計されるので、総務部門の負担はかなり軽減されていると思います！

 LINE WORKS については、他のツールに比べて導入がすごくスマートでした。

もともと社内連絡に LINE を使っていたこともあって、感覚としては「アプリが変わっただけ」って感じです。

操作感も LINE と変わらないので、運用ルールや操作方法で揉めることも一切なく定着してくれています。

 以前は仕事にも LINE を使っていらっしゃったんですね。切り替えるきっかけは何だったのでしょうか？

 LINE は使いやすくて便利なんですけれど、利用者様のお写真や情報を見たりして送ることもあったので、万が一流出や、そうでなくとも端末をどこかに忘れてきたらどうしよう……という不安がありました。

プライベートとの切り分けも難しかったので、LINE WORKS に切り替えることできちんと会社が管理できる状態にできて安心しています。

 今後は、うちの LINE WORKS と利用者様のご家族の LINE をつないで、連絡のメインを電話からチャットに切り替えていきたいと考えています。

もちろん、ご家族の属性に配慮する必要はあると思いますが、緊急以外は基本的にチャット、という体制を整えていきたいですね。

 チャット連絡ならいつでも送信・確認ができるので、ご家族の満足度も従業員の満足度も向上させることができそうですね、期待しています！

LINE WORKS にはチャット以外にもスケジュール等の機能がありますが、そちらは使っていらっしゃいますか？

 スケジュールはまだグループウェア離れてきていない状況です。まずは部署単位とか、少しずつ移行していく必要があるかな、と思っています。

長年使っているとなかなか切り替えが難しいですよね……。続いて、Dropbox はいかがでしょうか？

 社内の情報共有全体で見れば効率化されてはいるんですが……ちょっとアカウントの権限で揉めていて。最初は少人数で使ってたので問題なかったんですが、今は 80 名で 5 個のアカウントを共有しているのもあって「この情報は誰には見えていいけれど誰には見せないのか」とか、そのあたりの管理ができなくなっているのが実情です。

利用範囲が拡大したことでの新たな課題が出てきたということですね。ありがとうございます。

ここまでではツールについてお伺いしてきましたが、ここからは少し全体的なことについて伺いたいと思います。

 まず、『もし IT を導入する前の過去の自分にアドバイスできるなら、何を伝えたいか？』。ゆめネット様の経験がこれから IT を導入される企業様にとっては重要な要素になるかと思いますので、是非お聞かせください。

やっぱり、「現場の人の話はちゃんと聞いて、繋がりを大事にしてください」ですかね。

IT を導入して実際に使うのは現場の人なので、直接現場に出向いて話をする方が大事だと思いました。

当時の自分にアドバイスするとしたら、「IT はスーパーマンではないということをきちんと現場の人にもわかってもらってください」ですかね。IT ってすごく便利にはなるんですが、運用するにはルールも必要だし、できないことももちろんあるので、それを整理して伝えてあげることが大事かなと思っています。

IT はスーパーマンではない、まさにその通りですね。ではそれを踏まえて、これから IT を使っていこう！という中小企業にもしアドバイスするなら、いかがでしょうか？

 今はこうして IT 部門が機能していますが、もともとは「IT を導入する！」と決めた理事長の決断力と、それを実際に現場に推進していた池口さんあってのことだと思います。

さっきも言いましたが IT はスーパーマンではないので、導入・定着には「絶対に IT でうちの会社を良くするんだ」という信念と粘り強さが大事だと思います。

kintone や IT 系のセミナーに参加してみると、参加企業のほとんどが「なかなか社内に浸透してくれなくて……」という課題を持っているんです。

導入初期で上手くいかないと、「どうしてうちは……」となってしまいがちなんですが、そういう悩みはどここの会社も抱えていること。さっきと同じになってしまうんですが、やっぱり現場の人と腹を割って話し合うのが、地道かもしれませんのが一番の近道だと思います。

大事なのは粘り強さと現場との対話ということですね、ありがとうございます！では最後に、今後の展望をお聞かせください。

これまででは「新しい一步を踏み出すための伴走者」をテーマに掲げていたんですが、2023 年からは伴走者に加えて「これまで積み上げた経験を活かして、一層 IT 活用する組織に変化していきましょう！」をモットーに、より一層の IT 活用を支援していきたいと思っています。

ゆめネットで働いてくれている皆さんは福祉のプロ。その経験に IT をプラスすることで、より良い利用者さんへの支援につなげていけると考えています。

これまでのやり方を変えるのはとても負荷がかかるのですが、それを少しでも前向きに捉えて変化していきたいですね。

ゆめネット様、貴重なお話ありがとうございました！

